

## 企業、社会を支える人財(3)「期待されるプロフェッショナル意識と行動規範」

中小企業診断士・技術士 林田収二

本連載の初回に、「企業や社会を支える人財の基本要件」は次の3つと述べた。

- ① 企業や社会に貢献しようとする「志」
- ② 自らが仕事の「プロフェッショナルであるという意識」
- ③ 「目的指向性や計画性、柔軟な発想やスピード対応力」

前稿で「志」を含む期待される人財としての「心構え」について触れた。本稿では「プロフェッショナル意識と行動規範」について述べる。

### 【プロフェッショナルとアマチュア】

普段何気なくプロフェッショナルやアマチュアという言葉を使っているが、その違いとはどのようなものだろうか。

スポーツの世界では、プロフェッショナルとアマチュアの間に厳然たる差がある。例えば同じゴルフでも、賞金獲得をかけてプレーするのか、お金を払ってプレーするのか、大きな違いがある。生活をかけたのプレーは趣味のプレーとは別物である。

生活をかけたプロフェッショナル(特にトッププレーヤー)は、自分を厳しく鍛え上げ、戦いに挑み、敗北すれば冷静に反省し、勝利しても奢らず更に励む。片やアマチュアは、練習は余りせずにプレーを楽しみ、負ければ悔しがり、勝てば自慢する。

企業活動に目を移せば、ベンチャー企業や自分で会社を経営するオーナー企業家は、日夜を問わず会社経営に意を砕き、日々の仕事に邁進している。このような企業家は経営という仕事のプロフェッショナルと言ってもよいであろう。又職人気質と言われる仕事のプロもいる。

一方で、サラリーマン経営者、管理者、従業員の意識はどうであろうか。確かに、名経営者、スーパー管理者、仕事の達人等プロフェッショナルと呼べる人たちは大勢存在する。しかし、一方で、意思決定しない雇われ意識の経営者、上意下達で責任スルーの管理者、指示待ち従業員等も多く存在する。このような自らの力や働きで価値を生み出すことができず組織の恩恵や仲間のサポート受けるだけの、すなわち組織への貢献度より組織への依存度の高い人たちが仕事のアマチュアと言える。

企業や社会の中で、自ら価値・利益を生み出すことを意識し、実行できるプロフェッショナル人財が多くなれば、その企業や社会は強靱な構造となって、業績が向上し発展することになる。今日、停滞状況を打破し企業や社会の発展を図るため、プロフェッショナル意識と行動力を持つプロフェッショナル人財が、強く求められているのである。

### 【プロフェッショナル意識と行動規範】

ではプロフェッショナルとして期待される人財は、どのような意識を持ち、行動すべきなのであろうか。

#### 【プロフェッショナル意識】

まずは、自らの力、仕事の結果が世の中や人様のお役に立ち、そしてその評価を得て自らの生活をなり立たせているというプロフェッショナル意識を鮮明に持つことである。

自分が任された仕事は何としてでもやり遂げ、期待される成果を上げる約束ができる覚悟を持つ人財でなくてはならない。使命感、当事者意識を持って仕事に取り組むという言い方もできる。

#### 【プロフェッショナルとしての行動規範】

また以上のような意識を成果に結びつけるためには、的確に行動しなくてはならない、具体的には以下のようなプロフェッショナルとしての行動規範をもって、ことに対処することが肝要である。

- ・自ら関わる任務で約束した結果を出すことに責任をもつ

その任務の指示者や依頼者が期待している結果を正確に認識して(自らの好み、こだわりや付度は入れず)任務に取り組み、責任をもって期待される結果を出す

また責任を持って結果を出すために以下の要件を踏まえて行動する

—果たすべき任務に関わる事象を事実に基づき俯瞰的に把握し客体性をもって行動する

—期待通りの成果を出すべく、任務は計画的に準備、実行し、リスク管理も怠らない

—事象にとらわれず沈着冷静(問題発生、失敗にも慌てず)に本質を捉え的確に対処する

—単独任務は自己責任で、チーム体制では意思疎通を図りながら協調性をもって任務を適切に遂行する

—己を厳しく律し、ルール、計画を遵守する

- 任務遂行を円滑にすべく、関係者との対人関係に気を配り、良好な関係を構築し維持する  
顧客、上司、同僚、部下など相手に応じて、その立場を理解、尊重し配慮を怠らず、普段からのコミュニケーションで相互理解を深めておく。自分の考えを誤解を与えず正確に伝える自己表現力を強化することも心掛ける
- 成果を具体的に生み出す実行力を身に付け、駆使する  
新技術、新手法獲得を含め、プロフェッショナルといえる技量を常に磨いておく。それを活用し、局面に応じた最適な対応策を考え抜く癖もつけておく
- 機械設備や電子機器等、自分の使う仕事の道具を大切にし、手入れを怠らない  
自分の仕事やり遂げるために何時でも道具やツールがいつでも最高の状態で使えるようメンテ、手入れ、準備しておく(プロ野球選手がバットやグローブの手入れを怠らないと同様に)

(2019年10月)